

健康
アドバイス

潰瘍性大腸炎

ツカザキ病院 消化器内科 田中稔之 Dr.

はじめに

2007年に内閣総理大臣を辞任された安部晋三氏が先日、自民党総裁に就任されました。

このページでは、安部氏が内閣総理大臣を辞職した裏にあったとされる潰瘍性大腸炎という疾患の紹介と各種治療法の説明を行います。

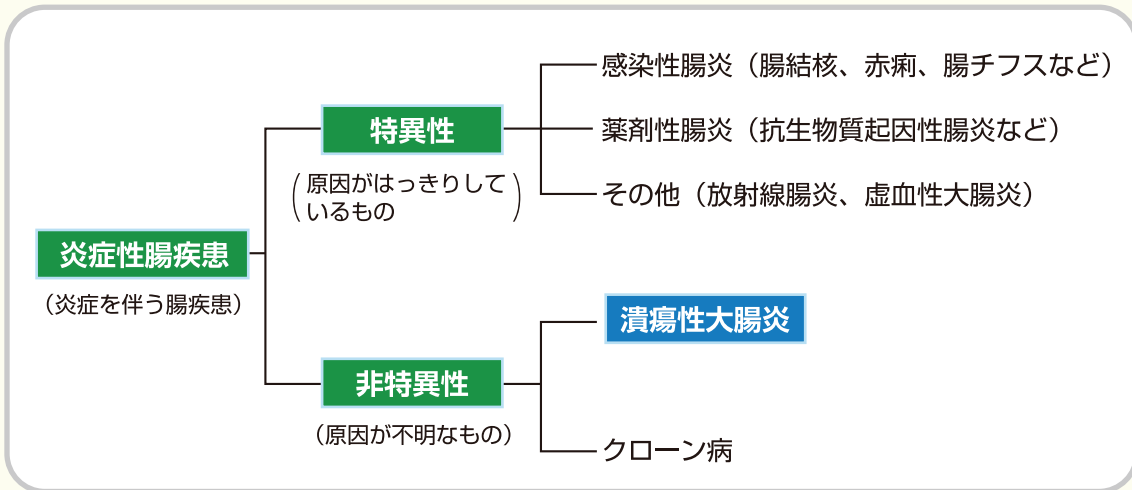
☆潰瘍性大腸炎について

潰瘍性大腸炎は、炎症性腸疾患（IBD）のひとつです。

炎症性腸疾患という聞きなれない方が耳にすると、「え？」となってしまいます。これは食道～大腸、肛門を含めて、様々な「腸」に色々な原因で（もしくは原因不明で）いろいろなところに炎症を起こしてしまう病気です。

その中で潰瘍性大腸炎は原因がはっきりしない、日本では難病に指定されている病気です。名前の如く、病気ができる場所は大腸が中心です。

現在、日本では患者数が増加している疾患の一つです。



☆潰瘍性大腸炎の症状は？

安部晋三氏は一部報道によると、「1日に30回トイレに行ってもまだおなかが痛い」といったことがあったそうです。このように症状がきつことにより、日々の生活、仕事に大きく支障をきたします。こういうことが政治家としての激務をこなせなかった理由の一つだったかもしれません。

激しい腹痛と下痢、ひどい時には下痢とともに下血することもあります。

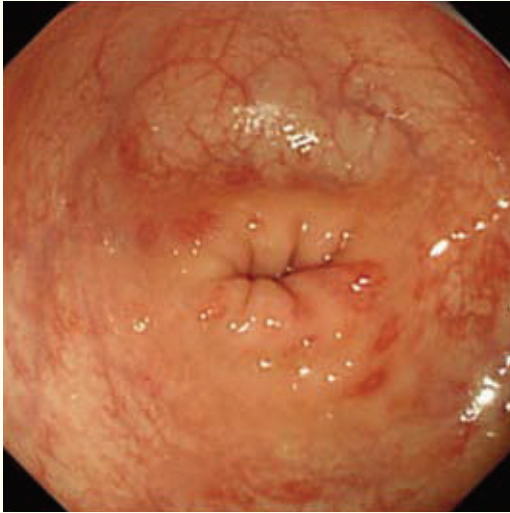
いずれも我慢できるものではありません。こういった症状が出たときはすぐに病院での受診

をお勧めします。

☆潰瘍性大腸炎の治療法は？

原因不明にして、かつ難病に指定されていて、、、確かに現時点では治癒（病気が完全に治ったという状態）という概念は使われませんが、全く手の出せない病気ではありません。難病であるこの疾患は寛解（病気の根本は治っていないが、症状のない状態）という概念への治療を目指すこととなります。

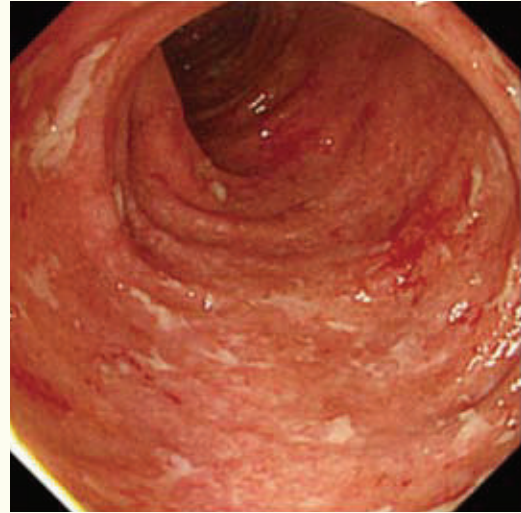
世界中のドクター達がこの疾患について日々研究を行い、様々な治療法が確立してきています。冒頭で原因不明といいましたが、現在もそ



●軽度の炎症

⇒斑状の発赤とただれ

ここまでは症状も数回の下痢、我慢できる範囲の腹痛程度が生じます。



●高度の炎症

⇒全体に広がっている炎症

これでも比較的ましな内視鏡所見ですが、症状は左記よりもかなりひどくなります。

の治療法が増えていっている最中と推測します。

おおざっぱになりますが、治療方法は基本的には内服治療です。それでも症状が改善しない時があります。その際は手術療法となります。

①内科的治療

先ほど述べたとおり、現在は潰瘍性大腸炎を完治させる内服治療はありません。症状をなくすことがメインとなってきます。

●5-アミノサリチル酸薬（5-ASA）製薬

サラゾピリンと、ペンタサヤアサコールです。

内服や浣腸（お尻から薬剤を注入すること）にて大腸に到達させ、炎症を抑える働きがあります。あの安部晋三氏はアサコールを使用し、寛解状態になったと各種報道機関が伝えております。

アサコールはいわゆる新薬です。

ゼリア新薬工業より平成21年12月に発売されたもので、同社によると、完治は難しいが抗炎症作用が働き下痢などの症状を抑える効果があるとされています。

安倍氏は「これを飲んでいる限りは大丈夫。」とおっしゃっていたようです。

●副腎皮質ステロイド薬

プレドニンです。

内服、浣腸、点滴にて投与を行います。強力に炎症を抑える作用があります。

●血球成分除去療法

透析に似た治療法となります。

血液中の異常な白血球を取り除く治療法です。

LCAP（白血球除去療法：セルソーバ）、GCAP（顆粒球除去療法：アダカラム）があります。副腎皮質ステロイド薬で効果が得られない患者さんの活動期の治療に用いられます。

●免疫調節薬

イムラン、ロイケリン、サンディミュン、プログラフです。これらの薬剤はステロイド薬の無効の患者さんや、ステロイド薬が中止できない患者さんの治療に用いられます。

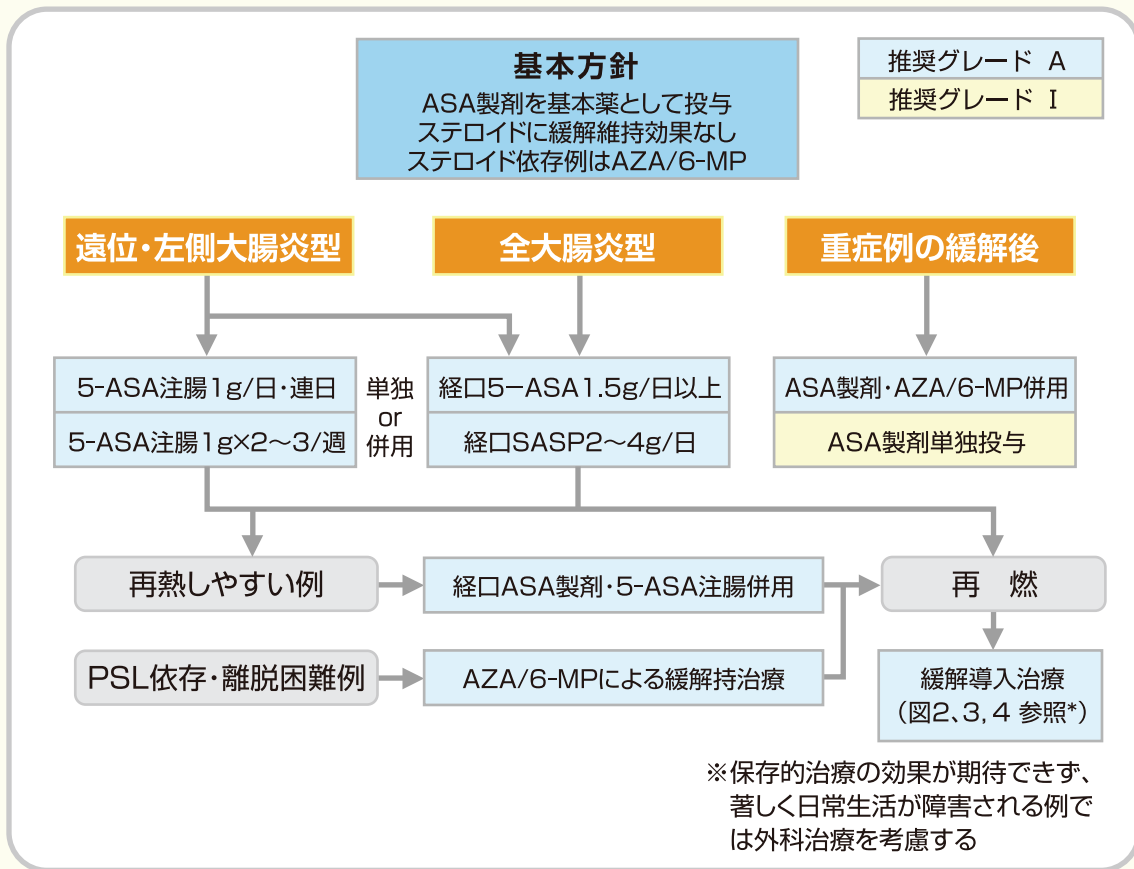
●抗TNF α 受容体拮抗薬

レミケードです。クローン病（炎症性腸疾患）や関節リウマチの患者さんでも使用されている注射薬ですが、潰瘍性大腸炎でも効果が期待できる薬剤です。

上記のように多数の内科的な治療法が確立されています。

当院では、上記のうち5-アミノサリチル酸薬（5-ASA）製薬を使用し、軽症の患者様を

外来にて治療を行っております。



②外科的治療

内科的な治療が効果がない場合など、下記の場合は手術を行います。

- 大量出血がみられる場合
- 中毒性巨大結腸症（大腸が腫れ上がり、毒素が全身に回ってしまう）
- 穿孔（大腸が破れる）
- 癌化またはその疑い
- 内科的治療に反応しない重症例
- 副作用のためステロイドなどの薬剤を使用できない場合

手術としては大腸の全摘が基本となります。現在では肛門を温存する手術が主流です。

ツカザキ病院では内科にて治療できる範囲のみ外来にて経過観察をさせていただいております。

難病に指定されるこの病気、重症の方は是非大学病院など大きな病院での専門治療が必要と考えております。理由として、治療選択肢が格段に多いことを上げさせていただきます。さらに、治験薬（まだ日本では正式採用されていない薬）の使用を許可されている点、薬の使用方法が難しい点（副作用が多い等）をあげます。

この病気は一生付き合っていかなければなりません。その期間中の投薬変更や調節は長年の研究、経験にて微調整されているものばかりです。

最新治療に力を注いでいる、大阪市立大学、兵庫県立医科大学は消化器内科医であれば誰もが知っている施設です。

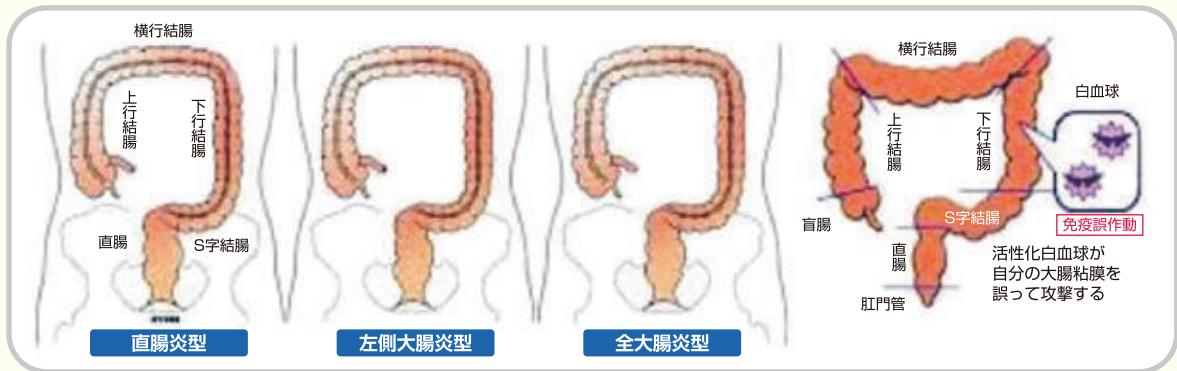
姫路市から結構距離がありますが、現在の治療法に疑問を呈している患者様は一度上記の施設への受診をお勧めします。

最後になりましたが、当院消化器内科では大学病院への紹介を行い、連携をとっております。気になる方はまず、消化器内科へ受診ください。

以上の記事は下記を一部参考とさせていただきます。よろしければご参照ください。

[難病情報センター](#)

<http://www.nanbyou.or.jp>



ちょっと



♡ ドクターズクラーク (医師事務作業補助者)

ツカザキ病院 3階 ドクターズクラーク 大畑 奈央

「ドクターズクラーク(医師事務作業補助者)」という職業をご存知でしょうか？

医療現場における事務といえば、医療費を計算する業務やカルテに関わる業務などを想像されると思います。

医師が行う業務の中にも、カルテ記載や書類記入など多くの事務作業があります。記入しなければならない書類は、診断書をはじめとし、民間保険会社の医療保険・疾病保険・介護保険などの証明書類があり、その数は年々増加し、記載内容も複雑になってきています。また、同じ診断書でも保険会社間で書式や様式が異なり、さらに1人の患者様でも異なった保険会社の複数枚の診断書発行を希望されることがあります。これらの事務作業に充てる時間の割合が増加傾向にあるということが、勤務医を対象に各都道府県医師会が実施した労働実態調査からも明らかとなっています。

ドクターズクラークとは、そのような業務を医師の指示の下で代行し、医師に本来の業務である医療行為に専念してもらうことで、医療の現場の質の向上に貢献することを目的として設けられた新しい職種です。負担が軽くなった分、医師と患者さんが接する時間はより長くもてるようになると期待されています。

当院の電子カルテ導入に伴い、ドクターズクラークとして脳外科・消化器内科・循環器内科に配属された私達ですが、臨床の現場に立ち会い、今まで頭で考えていたこととのギャップの大きさに気付かされました。まさに「百聞は一見に如かず」を実感する毎日です。前述の通り、私達の業務は医師の事務作業をサポートすることですが、診療科や医師によって必要とされる内容も異なる為それに応じた知識が必要であり、最初は病気や治療法を業務の傍ら勉強していきました。とても奥深いことなので、日々勉強してさらに知識を積み重ねていきたいです。

そして初めての部署ということもあり、各科の皆様に助けて頂きながら3か月が経ちました。外来での代行オーダーや入院書類の処理等で、微力ながらようやく業務が形になってきました。これからも質の高い医療を追及する一員として貢献できたらと思っています。

最後に、病院に来院される皆様は大小の不安を抱えていらっしゃると思います。私達ドクターズクラークは治療の手にはなれませんが、当院に来院される患者様・ご家族様に寄り添う心を忘れずに日々邁進していく所存です。行き届かないことも多々あると存じますが、ご指導の程宜しくお願い致します。